知床岬・知床岳方面を目指す方へ【重要】

フードコンテナがあなたの安全を守ります!!

フードコンテナとは
食料などをヒグマに奪われないための強化プラスチック製容器。ヒグマの力でも壊れない強度と、歯やツメが引っかかりにくい形状になっている。

No Food container
No Safety!!

平成21年夏には、フードコンテナに入れていなかった食料が荒らされる事件が羅臼側海岸（念仏岩付近）で2件発生しました。

知床は世界有数のヒグマ高密度生息地域です。
知床岬・知床岳方面での野営には
必ずフードコンテナを使用してください。
※レンタルもあります。詳細は裏面をご確認ください。

環境省・北海道・羅臼町・中標津警察署・知床財団
【知床半島先端部（知床岬・知床岳など）に向かう方へ】

あなたのヒグマ対策は万全ですか？

誤った判断は自分の身だけでなく、同行している仲間や今後訪れる方々まで危険にさらしなければなりません。知床半島先端部に立ち入る際には、以下のことに十分注意してください。

事前準備

(1) ルサフィールドハウス、羅臼ビジターセンター、知床自然センターのいずれかの施設から、ヒグマによるリスク（危険性）の軽減に関する最新の情報を入手し、十分な理解・学習を行うとともに、これに対処する技術の習得に努めてください。

(2) 臭いが強い食料や持ち物はヒグマを誘引するため危険です。食料や持ち物はできるだけ臭いが発生しないものを選定してください。

(3) フードコンテナ、クマスプレー、クマ鈴など、リスクの軽減、事故防止のための装備を準備してください。

※フードコンテナとクマスプレーは、下記の施設でレンタルしています。詳しくは施設に直接お問い合わせいただくか、レンタルを行っている知床財団のホームページをご覧ください。

(http://www.shiretoko.or.jp/bear/bear_10.htm)

行動中

(4) ヒグマとの突発的な遭遇は事故の最大の原因です。常に周囲に気を配る他、見通しの悪い場所では声を出しながら歩く、夜間・薄暮薄暮・濃霧時などは行動を避けるなどしてください。

(5) エゾシカやアザラシなどの死体があった場合、餌を守ろうとするヒグマから激しい攻撃を受けた可能性があるので、死体から速やかに離れてください。

(6) 食料やゴミなど、ヒグマを誘引する物をデポしたり放置したりしてはいけません。岩の下などに隠してもいけません。

(7) 食料やゴミなど、臭いを発する物をテントに入れて就寝するのは非常に危険です。必ずフードコンテナで保管し、テントから充分離れた場所に置いてください。

(8) ヒグマを目撃した場合は、ヒグマを刺激しないように引き返すなど適切な行動をとってください。特に子連れのクマには注意が必要です。

皆様へのお願い

ヒグマ対策では他にも留意すべき事項が数多くあります。また、知床半島先端部地区はヒグマ対策以外にも多くの注意点があります。先端部地区への立ち入りにあたっては「知床半島先端部地区利用の心得」※を必ずよく読み、実践してください。

【ヒグマ対策・先端部地区の情報を取りうる施設】

○知床世界遺産ルサフィールドハウス http://shiretoko-whc.jp/rihf/

開館時間（夏季）5〜10月 9:00〜17:00 火曜日休館
（冬期）2〜4月 10:00〜16:00 火曜日休館
0153－89－2722 北海道日高郡羅臼町北浜8番地

○羅臼ビジターセンター http://rausu-vc.jp/

開館時間（夏季）5〜10月 9:00〜17:00 月曜日休館
（冬期）11〜4月 10:00〜16:00 月曜日 /年末年始休館
0153－87－2828 北海道日高郡羅臼町湯ノ沢町6-27

○知床自然センター http://www.shiretoko.or.jp/

開館時間（夏季）4/20〜10/30 8:00〜17:40 休館日なし
（冬期）10/21〜4/19 9:00〜16:00 12/31のみ休館
0152－24－2114 北海道斜里郡斜里町岩宇別

※利用の心得は、左記施設の他知床データセンターで入手できます。（http://dc.shiretoko-whc.com）計画と法律＞知床ルール＞先端部利用の心得

知床半島先端部地区では、厳しい自然条件があるため対応しています。立ち入る際には、十分な知識、高い判断力や体力が必要です。
平成 22 年度の知床岬方面トレッキング利用について

平成 22 年 4 月 1 日（木）
環境省、北海道、羅臼町、（財）知床財団

（問合せ先）
環境省釧路自然環境事務所（担当：則久）
0154-32-7500（TEL）、32-7575（FAX）
（財）知床財団（担当：田澤）
0153-87-2828（TEL）、87-2826（FAX）

平成 21 年 9 月、知床岬へトレッキング中の方が野外に残置いていた食料をヒグマに奪われる事例が発生したことを受け、平成 21 年度中の知床岬方面へのトレッキング利用については自粛を要請していました。このたび、食料等の残置を禁じる旨の「知床半島先端部地区利用の心得」の一部改訂と、フードコンテナの携行その他「知床半島先端部地区利用の心得」の遵守についての普及啓発強化を行い、これらの遵守を前提として、平成 22 年度からの知床岬方面へのトレッキング利用の自粛要請を解除することとしましたので、お知らせします。

知床半島先端部地区は、厳しい自然条件のもと、全て自己の責任において判断し、行動しなければならない場所です。また、誤った判断は自分自身だけでなく、同行している仲間や今後同じように訪れる方々まで危険にさらしかねません。知床半島先端部地区への立ち入りを計画されている方々にあっては、必ず「知床半島先端部地区利用の心得」を遵守してください。

1. 経緯

平成 21 年 9 月、羅臼側海岸の念仏岩において、知床岬へトレッキング中の方が野外に残置いていた食料をヒグマに奪われる事例が発生しました。このことについては、類似の事案が同年 7 月にも発生していた可能性が高いこととあわせ、既に 9 月 28 日の速報、並びに 10 月 27 日の詳報でお知らせしたところです。

いずれのケースも、フードコンテナ（強化プラスチック製のヒグマ対策用食糧保管容器）を用いず、食料を残置していたために食料を野生動物（ヒグマ等）に奪われたケースです。今回のケースについては、ヒグマが人間から強引に食料を奪ったり、設置しているテントを荒らしたりしたものではなく、人的被害もありませんでした。しかし、今後同地区周辺において、食料に味をしめたヒグマがトレッキング利用者らの荷物やテントなどに執拗する可能性があり、人的被害の発生に繋がることも考えられたことから、9 月 28 日及び 10 月 27 日のお知らせでは、平成 21 年度中の知床岬方面へのトレッキング利用の自粛を要請していました。

知床岬を含む知床半島先端部地区の利用については、平成 20 年 1 月、「知床半島先端部地区利用の心得」（以下、「心得」という）を策定し、ヒグマを含むリスクの軽減に関する取組を利用者に求めていますが、今回の事案の要因はこの「心得」の中で強く求めているフードコンテナによる食料の保管が徹底されていなかったことにありました。
このたび、今回の事例を踏まえて食料等の残置の禁止を明示する心得の一部改訂を行うとともに、フードコンテナの携行その他心得の遵守についての普及啓発を強化することとあわせ、平成22年における知床岬方面へのトレッキング利用の自粛要請を解除することとしましたので、お知らせします。

2. 今後の対応について

今回の事例を踏まえ、心得を一部改訂して新たに食料等のデポ（一時的な残置）についても注意喚起を図ることとしました。また、心得及びフードコンテナに関するリーフレット等を作成し、今後、アウトドア雑誌等メディア、山岳会等関係団体などへの広報、並びに関連施設でのリーフレット配付を通じて普及啓発を図ります。あわせて、財知床財団では、フードコンテナの貸し出し体制の強化を図ります。

また、平成22年度には、心得の普及啓発及び遵守状況把握のための現地調査等を予定しております（本調査については、詳細が決まりましたら改めて公表いたします）。

※「知床半島先端部地区利用の心得」の一部改訂の内容

2. 共通事項

（1）リスクの軽減に関する事項

イ. ヒグマ対策

食料やゴミなどヒグマを誘引する物を含む荷物は、常に持ち歩くこと。途中に一時置いて行動すること（いわゆるデポ）は絶対に行わない。ヒグマに食料を取られないようにデポすることは困難である。また、食料等を含まない荷物についても、デポしないことを推奨する。

3. 知床半島先端部地区利用者へのお願い

知床半島先端部地区は、世界有数のヒグマ高密度生息地であり、それに加えて厳しい自然条件が待ち受けています。過酷な条件に自らの力だけで対処できる極めて高度な技術・体力・判断力が必要であり、また、全て自己の責任において判断し、行動しなければならない場所です。そのうえ今回の事例のように、誤った判断は自分自身だけでなく、同行している仲間や今後同じように訪れようとする方々まで危険にさらしかねません。

知床半島先端部地区への立ち入りを計画されている方々にあっては、必ず「知床半島先端部地区利用の心得」を入手し、内容を学習されるとともに遵守してください。また、最新情報やリスク低減に関する情報を入手するため、必ず事前に知床世界遺産ルサフィールドハウス、羅臼ビジターセンター、または知床自然センターにお立ち寄りください。

（1）知床世界自然遺産ルサフィールドハウス http://shiretoko-whc.jp/rfc/

開館時間（夏期）5～10月 9:00～17:00 毎週火曜日休館
（冬期）2～4月 10:00～16:00 毎週火曜日休館
（閉館）11～1月

0153－89－2722 北海道日高郡羅臼町北浜8番地
（2）羅臼ビジターセンター  http://rausu-vc.jp/
開館時間（夏期）5～10月 9:00～17:00 毎週月曜日休館
（冬季）11～4月 10:00～16:00 毎週月曜日及び年末年始休館
0153-87-2828 北海道根室郡羅臼町湯ノ沢町6-27

（3）知床自然センター  http://www.shiretoko.or.jp/
開館時間（夏期）6/20～10/20 8:00～17:40 休館日なし
（冬季）10/21～4/19 9:00～16:00 12/31のみ休館
0152-24-2114 北海道斜里郡斜里町岩宇別

また、「知床半島先端部地区利用の心得」については、知床のデータベースサイトである「知床データセンター」のホームページからダウンロードできます。

（別紙1）ヒグマによるリスクの軽減等の観点から留意すべき事項や禁止事項
（別紙2）知床半島先端部地区利用の心得について
（別紙3）利用の心得普及啓発パンフレット「知床半島先端部地区に立ち入る方へ」
（別紙4）フードコンテナ普及啓発チラシ「フードコンテナがあなたの安全を守ります！」
ヒグマによるリスクの軽減等の観点から留意すべき事項や禁止事項

利用者が知床半島先端部地区（知床岬方面）に立ち入る際にヒグマによるリスクの軽減等の観点から留意すべき事項や禁止事項は、次のとおりです（「先端部地区利用の心得」より抜粋）。

１ 未然防止
i ヒグマの生息密度が特に高いルシャ地域（ルシャ川河口付近を中心にウブシノッタ川からタキノ川に至る地域（別図－１「先端部地区位置図」、「区域図」参照）には立ち入らないこと。特に野営は厳に行わないこと。
ii 野営の際には、ヒグマに関わる事故を避けるため、テント場、調理・食事の場所及び食料保管場所をそれぞれ十分に離して設け、テント内に食料を持ち込むことは厳に避けるとともに、食料やゴミは絶対にヒグマに取られないよう「ヒグマ対策用携帯食料保管容器（フードコンテナー）」の中に厳重に保管すること。また、テント周辺を「携帯式電気牧柵」で囲うことを推奨する。
※「携帯式電気牧柵」については、知床自然センターのホームページを参照。
※フードコンテナ及びiiiに記載のあるクマスプレーについては、ルサフィールドハウス、羅臼ビジターセンター、知床自然センターで貸与している。
iii クマスプレー、鈴等リスクの軽減、事故防止のための装備を備えること。
iv 臭いが強い食料や持ち物はヒグマを誘引し、危険である。食料や持ち物はできるだけ臭いが発生しないものを選定すること。
v 食料やゴミなどヒグマを誘引する物を含む荷物は、常に持ち歩くこと。途中に一時置いて行動すること（いわゆるデポ）は絶対に行わない。ヒグマに食料を取られないようにデポすることは困難である。また、食料等を含まない荷物についても、デポしないことを推奨する。
vi エゾシカや漂着した海鳥類等の動物の死体があった場合、ヒグマが食付いている場合があり、餌を守ろうとするヒグマから激しい攻撃を受ける可能性があるので不用意に近づかず、すみやかに離れること。
vii ヒグマと至近距離で不意に出会うことが事故の原因となることから、特に見通しの悪い植生地や場所では声を出す等あらかじめ人の存在を伝えること。
viii 常に周囲に気を配り、注意を払うこと。（特にサケ・マス越上時期の河川等はヒグマが集まりやすい。）
ix 夜間や薄明薄暮、濃霧の時等視界が効かない時には、突発的な遭遇が起こりやすいので、なるべく行動しないようにすること。
x ヒグマに対して絶対に餌を与えないこと。

② 遭遇時の対応
i 進行方向にヒグマを目撃した場合は、ヒグマを刺激しないように引き返す等適切に行動すること。
食料やゴミを取られたり、人や食料に対して意団的に近づく個体が確認された場合は速やかに引き返すこと。(取られたものは取り返さないこと。)

③ 事後対応
食料やゴミを取られたり、人や食料に対して意団的に近づく個体が確認された場合、あるいは追跡を受けたり、事故が発生した際には、他の「利用者」のリスクの軽減のため、環境省自然保護官事務所(ウトロ・羅臼)、羅臼町役場または知床自然センターのいずれかに速やかに連絡すること。

※フードコンテナ及びクマスプレーについては、知床財団ホームページ参照のこと。
(http://www.shiretoko.or.jp/bear/bear_10.htm)
知床半島先端部地区利用の心得について

知床半島先端部地区は、極めて原始性の高い自然景観と豊かな野生生物によって形成される多様な生態系を有する地域であり、人類共通の財産として持続的な保全を図り、より良い形で後世に引き継いでいく必要がある地域です。
また、先端部地区は歩道や車道など一般の公園利用のための施設が設けられていないほか、知床森林生態系保護地域として「自然の推移に委ねる」地域とされているなど、制度上一般の利用者による積極的な利用は想定されていない地域です。
先端部地区に立ち入るような利用者は、刻々と変化する海況や風況、低い海水温や高密度なヒグマの生息など、過酷な自然条件に自らの力だけで対処できる数々の問題が、体力及び判断力が求められ、全ての行動に自己の判断が要求され、その結果は全て自己の責任に委ねられることを十分に自覚することが求められます。

「知床半島先端部地区利用の心得」は、先端部地区の利用に関し、自然保護やリスク（危険性）の軽減の観点から留意すべき事項や禁止事項を定め、それを守っていただくことにより、先端部地区の風致景観と生態系を持続的に保全するため、知床国立公園利用適正化検討会議により合議され、平成20年1月に定められました。